二中の木

学校報
第９号
H28/09/16

能代市立
能代第二中学校
TEL52-5138

魅せろ二中魂～すべての人に笑顔の花を～
故郷へ、感謝の気持と元気よ届け！

9月10日（土）の夕刻6時。今か今かと出発を待っていた二中生三百名が満を持して、駅前大通十字路を万町方向へ向かって進行を開始しました。シャチ、灯籠、提灯、田楽それぞれに灯が点され、暮れかかった能代の街に『二中若』一団の紅潮した頬が浮かび上がります。『ヨーレゴレ』の掛け声に気持を高ぶらせ、さあ！第17回『二中若』の開始です。

「入魂式」の様子

前日、体育館ではシャチに墨で黒々と目玉を入れる「入魂式」が行われました。本校卒業生でおなじみのフェスティバル実行委員の原田真吾さんも駆け付け、激励のあいさつをいただきました。

各部門が運行でめあてとする動きを発表しながらの、言わば決意式と言っていいほど、生徒の熱意にあふれた式を行うことが出来ました。

二中魂の発揮

式で概ねこんなことを話しました。

～私にとって能代二中は、若い頃の情熱の全てを傾けた学校です。当時の二中生だった皆さんのお父さんやお母さん方はその思いに一生懸命応えようとしてくれました。

そうやって皆が一緒になってつくり上げたという、私にとってはかけがえのない学校です。

おそらくはこの二中が私の終の棲家となるのだろうと思うと誇りのようなものを感じるのです。

その私にとって何よりも悲しく辛いことは、三つの確信　校歌、校訓、伝統」に添った二中魂が弱いのではないか、言葉通りの行動が出来ていないのではないかと感じてしまう場面に出会うことです。

二中祭、二中若と　他人と地域の幸せを願って動く。」と決めた以上、その言葉に嘘があってはなりません。　自分の楽しみや自分が目立つための行事では

ない。」と決めた以上、その行動に責任をもたなければなりません。地域に応援される二中を目指して、70年の歩みを続けてきた二中の歴史を損なうことは誰にも許されないことです。二中魂が揺らぐ場面を見るということは、二中の輝かしい伝統が崩れてしまう瞬間を見てしまうと言うことです。

部門練習、集会等を通じて練り上げてきた二中若、故郷への思いとは何だったのかを心に蘇らせて欲しいと思います。～

多くの支えの中で

前日、そして当日と延べ一六二名の保護者と地域応援隊の方々が、『二中生の志を応援し支える！』の思いで協力してくださいました。灯籠、シャチの組み上げ、ビニール掛け、飲料配布、見守り等々・・・、数えれば切りがないほどのご支援をいただきました。前日の雨の中の灯籠移動などは、皆で声をかけ合い安全を確認してもらいながら駅前までやっとの思いで運搬しました。

二中生にも、応援していただいている、支えてもらっているからこそ運行ができているとの思いを強く持ってもらいたいと考えています。

お陰様で、曳き手の威勢のよい音頭上げや掛け声、最後まで途切れず元気のよかった田楽隊、息の合った調子で音を美しく流した笛、腹に響く力強い音を出してくれた太鼓、激しい動きを止めることなくやりきった踊、そして二中若テーマの横断幕で全体をリードした先導が存分に活躍できました。今年も爽秋の能代に、二中若の勇姿が躍り飛び跳ねました。支えていただいた方々に改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

沿道のお客様からは、大きなご声援と拍手をいただきました。充分に二中生の志を感じていただいたようです。

流し」の後の幸輝くんや紘くんの言葉一つ一つから、二中若への思いや満足感が伝わって来ました。【終】